

令和5年度第2回平塚市文化振興懇話会会議録

【日 時】 令和6年3月13日（水） 10:00～11:30

【会 場】 中央公民館 大会議室

【出席者】 構成員6名（敬称略） : 沖野成紀、丸島隆雄、平野恵美子、岩崎由紀子、
加藤宏、高橋孝祥
市職員4名（事務局） : 小峰市民部長、柴崎文化・交流課長、
武井文化振興担当長、荒原主管
傍聴人 : なし

会議次第

1 開会

2 市民部長あいさつ

3 参加者紹介

4 座長・副座長の確認

座長（沖野氏）、副座長（平野氏）が選任された。

傍聴人の確認

傍聴希望者がいなかったことを事務局から座長へ報告した。

5 議題

（1）平塚市の文化行政について

○事務局説明要旨

- ・資料（1）に基づき説明
- ・平塚市では市民部文化・交流課と教育委員会の社会教育部で役割分担をして文化行政に取り組んでいる。
- ・文化・交流課では、ひらしん平塚文化芸術ホールの管理運営のほか、文化情報誌の発行、平塚市文化振興基金の管理・活用、囲碁文化の振興や、まちづくり財団の文化事業への補助を行っている。

●文化情報誌たわわ

- ・平塚市にゆかりのある人・活動を、文化の観点から取り上げ、市民に紹介している。また、文化財や地域の歴史、ひらしん平塚文化芸術ホールの主催事業レポート、リトアニア共和国や令和5年11月に姉妹都市となったカウナス市の紹介も取り上げている。

●小学校アウトリーチ事業

- ・市内小学校に、プロの演奏家を派遣して、身近なところで音楽に触れてもらっている。

令和5年度は7校で7日間実施した。

●平塚市文化振興基金

- ・市民文化の振興を図るために必要な長期的・安定的財源を確保するため、平成6年度に創設した。2月末現在で令和5年度は3件、98,690円の寄付をいただき、累計で440件、70,588,856円の寄付をいただいている。
- ・この基金は、小学校アウトリーチ事業、平塚市まちづくり財団と連携して実施する囲碁文化振興事業、文化振興補助事業等に活用している。

●囲碁のまちづくり

- ・平塚市にはかつて木谷實九段が開設した木谷道場があったことから、囲碁を本市の特色ある文化と位置づけ、平塚市まちづくり財団に委託し、年間を通して囲碁大会、囲碁教室等を開催し、囲碁文化の振興を図っている。令和5年度は「湘南ひらつか囲碁まつり」で5年ぶりに1,000面打ちを復活して開催できた。その他の事業についても、子ども囲碁大会や女流棋聖戦大盤解説会、各種囲碁教室など概ね予定どおり開催した。

●公益財団法人平塚市まちづくり財団の事業

- ・文化芸術の振興を図るため、平塚市まちづくり財団に補助金を交付し、財団が普及振興事業を実施している。

●ひらしん平塚文化芸術ホールの運営

- ・本市の文化芸術の創造拠点として様々な文化芸術の鑑賞、体験、発表の場として活用されている。市内外から多くの方が参加され、周辺の賑わいを創出している。詳細については次の議題で報告する。

○質問・意見等

構成員：文化情報誌たわわについて、今年度から発行部数が4,800部から4,200部に減少しているが、その理由は何か。以前の懇話会でSNS等との連携など配布方法の検討の提案もあったがそういったことを反映したのか。

事務局：たわわについては、市のホームページで電子版を掲載し、紙以外の閲覧方法を用意している。配布した余りが在庫となっていることもあり、インターネットで閲覧になる方も増えていると判断し、紙の発行数を減らした。

座長：4,200部にすることで、在庫は減らせたのか。

事務局：過去のを欲しいという方も時々いらっしゃるもので、ある程度在庫を持つようにしている。ここで発行数を減らしたことで大量の在庫を抱えることはなくなると考えている。

構成員：ひらしん平塚文化芸術ホールのエントランスギャラリーで展示をしている作家から、多目的ホール側の照明が暗くて、夕方以降は作品が鑑賞しにくいという声があがっている。対応をできないか。

事務局：ハード的な制約があるかもしれないが、指定管理者と対応を検討したい。

構成員：小学校アウトリーチについて、演奏家のジャンルなど学校がメニューを選べるのか。

事務局：学校から演奏ジャンルについて希望を聞いてアーティストと調整している。

構成員：今年度7校実施だが、予算上の最大は何校実施できるか。

事務局：予算上実施できる最大が7校である。多数応募いただいているので、抽選で7校を決定している。

座長：学校の要望も聞いてからアーティストを選んでいるのか、学校の要望を聞く時点でアーティストが決まっているのか。

事務局：派遣するアーティストはある程度事前に決まっている。その中で学校の希望を聞いて、各校にどのアーティストを派遣するか決定している。

構成員：どの程度学校に事前にどんなプログラムがあるか一覧表とかで渡しているのか。

事務局：アーティスト名までは伝えていないが、ヴァイオリン、ピアノ、ピアノ連弾、ブラスバンド、金管五重奏などのジャンルを伝えて希望を聞いている。

構成員：例えば、演奏曲とか具体的な内容をお伝えしおくと、学校も希望しやすいのではないか。そういったパンフレットがあるとよい。

事務局：次年度以降に検討していきたい。

構成員：文化振興基金について、今年度3件の寄付があったとのことだが、この3件は個人か企業か。また、この基金の存在を市民にどうやってPRしているか。

事務局：3件は、基金を活用しているまちづくり財団の事業での募金箱、進和学園本人自治会、竹遊会からご寄付をいただいた。基金のPRは、市のホームページのほか、文化情報誌たわわの4面にも毎回掲載して、掲載を承認いただいた寄付者についても紹介してPRしている。

座長：これまでの意見をまとめる

①文化情報誌たわわの発行部数減について質問があった。

②ひらしん平塚文化芸術ホールエントランスギャラリーの照明の照度について要望があった。

③小学校アウトリーチについて学校の希望の取り方について質問があった。

④小学校アウトリーチについて、各演奏家のプログラム内容などを募集時に小学校にお知らせする提案があった。

⑤基金の寄付者とPR方法について質問があった。

(2) ひらしん平塚文化芸術ホールの運営状況について

○事務局説明要旨

・資料(2)に基づき説明。

●令和4年度・5年度の利用状況

・令和4年度の実績として、貸出施設の利用者数は累計で121,589人であった。

・令和5年度は1月までの実績で、5月、8月、9月、11月は前年度に比べて少し減っているが、他の月は大幅に増加している。

・1月末時点で比較すると令和5年度は令和4年度に比べて、15,720人、約16%増えた。

・令和4年度の各施設の稼働率は、大ホールは62.1%、多目的ホールは57.5%、全施設平均では49.2%となっている。

・令和5年度1月末時点の稼働率は、全ての施設で令和4年度の稼働率より上昇してい

て全体で57.5%となっている。

●令和5年度実施事業について

- ・指定管理者が実施する事業には、市の指定管理料を充てて実施する主催事業と、指定管理者の自主企画としてチケット収入の責任を負う自主事業の2種類がある。
- ・主催事業は1月末時点で13,574人の参加があり、自主事業は5,821人の参加があった。

○質問・意見等

構成員：大ホールの定員は？

事務局：1,200席である。

構成員：神田伯山独演会は参加が648人だが。ネット販売のあと、窓口販売をしたと思うが完売だったのか。ネットと窓口は別に用意したのか。

事務局：1階席のみの販売でネット販売、窓口販売とも即日完売であった。ネット販売を先に実施し、翌日に窓口販売を行った。それぞれの席数を確保して販売している。

座長：神田伯山は定員を半分にしたということか。

事務局：プログラム上出演者の意向もあり、2階席、3階席は使用しなかった。

構成員：公演のチケット販売方法について、落語もそういった販売方法か？ネット販売と窓口販売があることを利用者は知っているのか。

事務局：落語についてはまちづくり財団で販売したものと思われる。文化芸術ホールのチケットについては通常、ネット販売と窓口販売を行っている。神田伯山のように人気のあるチケットの場合は事前にネット販売分と窓口販売分を分けて販売することがある。

構成員：大ホール、多目的ホールは稼働率が高い。毎月の予定表ポスターなどで大きく貼り出せば、市民や利用者にも分かるのではないか。茅ヶ崎市や藤沢市では作っていて、平塚市内の施設でも貼ってあるのを見かける。平塚はホール主催の事業しか出ていない。

事務局：現在は、掲載を承諾頂いた利用者については、情報誌ミツカルに1か月の予定表を掲載していて、ホームページでもイベントカレンダーとして掲載している。月間利用表のポスター掲示はしていないが、指定管理者と検討する。

構成員：レセプションist養成講座は参加費がかかっているか。

事務局：参加費は徴収しているが、令和5年度はホールのレセプションistとして活動して頂ける方は無料とした。

構成員：レセプションistは無償で活動しているのか。衣装は自前か。

事務局：無償で活動していただいている。サコッシュとスカーフを支給している。

構成員：ホールのレセプションistの方が、指定管理者以外のホール利用者の催しでも、有償でもいいのでレセプションistとして協力してほしい。

事務局：現在はそういった運用はしていない。指定管理者にニーズをお伝えする。

座長：これまでの意見をまとめる

①事業の定員、チケット販売方法について質問があった。

②ホールの利用一覧の掲示について要望があった。

③ホールレセプションистの利用団体への協力について要望があった。

(3) 平塚市文化芸術振興計画の進捗状況について

- ・資料(3)、(4)に基づき説明。
- 令和4年度事業進捗状況管理表への文化振興懇話会意見に対する所管課見解
 - ・令和4年度進捗状況管理表について、10月の文化振興懇話会で頂いた意見を庁内で検討し、資料(3)のとおり所管課の見解をまとめた。
 - ・様式についての意見については、資料(4)のとおり反映した。
- 中間見直しについて
 - ・令和6年度に計画の中間見直しを実施する。
 - ・4月には市民アンケート調査を実施する。
 - ・見直し案については7月に文化振興懇話会を開催しご意見を伺う予定である。

○質問・意見等

座長：金目エコミュージアムについて、東海大学 NPO との連携についてだが、実施団体の意向もあるので、無理に連携をしなくてもいいと思う。

構成員：金目エコミュージアムは、人間環境学科ではないが、昔の教職センターの東海大学の先生、博物館学の方が学生を連れて参加していた実績はある。

座長：連携の実績があるのはよかった。

構成員：木谷實・星のプラザについて、村井弦齋に関わる方から、村井弦齋についての常設展示もしてもらえないかという声があった。

事務局：元々は市民センター時代から木谷實・星のプラザを設置していたため、文化芸術ホールに移転したもので、他の展示をすることはできない。村井弦齋の展示は文化芸術ホールを希望しているのか。

構成員：星のプラザのように常設展示をしてもらえるところがあればということ。

事務局：文化芸術ホールは余剰スペースがないので常設展示は難しい。社会教育課には希望を伝える。

構成員：平塚には、村井弦齋さん以外にも色々な作家さんがいる。そういった方を紹介するコーナーがあるといい。図書館でもいいし、文化芸術ホールでもいい。美術館でも平塚の作家さんを紹介してくれるといい。活躍していても市民に中々浸透していない。

事務局：作家に限らず、平塚に所縁のある著名な方の紹介をということで、シティプロモーション担当にもご意見を共有したい。美術館についても地元の作家を市民に知ってもらおうというご意見を美術館にも共有する。

構成員：ホールの加藤アンバサダーも、テレビにも出演されていて、そういった方が文化芸術ホールに関わっていただいているのだなと思った。平塚の文化が徐々に深まっていくのではとても期待している。

座長：ぜひ、音楽家も紹介をお願いしたい。

構成員：女性囲碁入門講座があるが、女性の活躍を期待している。講座を終了してからどう継続していくか、どう育成していくのか。

事務局：10名が参加していただき、アンケートで引き続き続けたいという方には、囲碁

サークルを紹介している。囲碁級位認定大会に参加した方もいらっしゃる。また、女性活躍との関連では、毎年、女流棋聖戦を誘致している。市の囲碁大会でも棋力の高い若い方が増えている印象である。なるべくすそ野を広げていき、老若男女関わらず、囲碁のまちづくりを推進していきたい。

構成員：囲碁事業はまちづくり財団で実施している。女性囲碁入門講座のほかにも、子ども向けの囲碁講座、モーニング囲碁講座を実施している。女性も含めて広く進めていきたい。級位認定大会は4分の1が女性参加者である。また、棋力のある若い人の話として、今年度囲碁選手権全国大会において団体戦で優勝した女子の高校生がいる。

座長：昨年のプロ棋士タイトル戦が平塚で実施されるのに、開催地の平塚があまり注目されていない。テレビ放送でも平塚が紹介されていなかった。今年度はどうだったか。

事務局：今年度の女流棋聖戦は、史上初の10代対決として注目度も高かった。新聞などで平塚の開催であることを紹介されていた。さらに取り上げてもらえるような工夫をしていきたい。

座長：東海大でもスポーツ部選手のメディア取材では、バックボードを使って大学をPRしたりしている。そういった工夫もできるのでは。

事務局：今後検討したい。

座長：これまでの意見をまとめる

- ①金目エコミュージアムと東海大の連携を確認した。
- ②村井弦斎の常設展示について要望があった。
- ③平塚所縁の作家、アーティストのPRコーナーの要望があった。
- ④女性向け囲碁教室に関連して女性活躍について質問があった。
- ⑤女流棋聖戦での平塚市のPRについて意見があった。

座長：以上で議事を終了する。

6 事務連絡

7 閉会